

酒井忠康委員長（美術評論家・世田谷美術館館長）

何かある種の気づきというか、目覚めみたいなもの、今はこういう閉塞した時代だから、それをいい意味で展開できればと思う。本来、彫刻が持っている要素みたいなものをどう捉えるかという大事な課題もあったけれど、そういうものを超えて、今回の結果から何か印象を見つけられることとしては、楽しいフロアになりそうな感じがしたということで、それは決して悪いことではないように思う。

水沢勉委員（美術評論家・神奈川県立近代美術館館長）

全体として今回の応募作品はいつもよりも素材の多様性に対する意識が感じられ、それが新鮮だった。また、5組の海外作家が実物制作に選ばれたことは良かったと思う。「Yakumo-Lafcadio, doric torii」に見られるように、異文化と混ざりあう彫刻のあり方が、実物制作指定作品の15点からも伝わってほしいと思う。

植松奎二委員（彫刻家）

今回初めてUBE ビエンナーレの審査員に参加できて嬉しく思う。澄川喜一先生が後ろから背中をたたいて「植松君、頼むわ」と言われたような気がして、一生懸命、選ぶのに時間がかかった。受賞作品は宇部市に所蔵されるため、実物制作指定作品は、傾向として永久的に残るような作品になり、実験的な作品が少なくなるのが個人的には少し気がかりに思った。

河口龍夫委員（現代美術家・筑波大学芸術学系名誉教授）

作家の立場から非常に単純に模型を見て、「大きくなったら見たいな」、「彫刻になったらどう見えるかな」という視点で選んだ。実物になったらどういうふうになるか、あるいはどういうふうになるか。単に大きくなるだけではないと思う。そこを楽しみにしている。

河野通孝委員（山口県立美術館副館長）

審査員としては新参者なのだから、少々マイナスポイントには目を瞑り、チャレンジしている作品を推薦してみたいという思いで審査にのぞみました。結果、迷い続けました。結局、私が推した作品は少なからず実物制作指定からは漏れましたが、審査結果としては順当なものだと思います。とはいえ、「トルソの風景」という木彫作品は、未だに実作を見てみたかったなという思いが残っています。屋外空間にすくっと立ちあがる高さ3mの木彫……。目にみえて朽ちていくだろうそのカタチにどんな狙いがあったんだろう。

不動美里委員（姫路市立美術館館長）

今回、前回展に比べて応募点数が減ったが、実感としては非常に質の高い内容で、選ばれた作品に関してもクオリティが高い。しかも、海外作家も実物制作指定作品に多く入選し、かつ素材や表現、コンセプトにおいてもバラエティに富んでいるということで良い結果が得られたのではないかと感じる。

野中明委員（広島市現代美術館副館長）

結果として素材、表現ともにバラエティに富んだ作品が選ばれてよかった。前もって決められた丘の区画に作品を設置する方式だからか、環境に働きかけるような作品ではなく、一つのオブジェクトとしてまとまったような作品が多くなっているのが少し残念に感じる。招待作家制度があった過去の野外彫刻展では、公募参加の作家も招待作家のレベルを目指すことで、全体として作品の質が上がっていたような印象があり、それを復活させるのも一つの考え方のように感じる。

藤原徹平委員（建築家・横浜国立大学大学院 Y-GSA 准教授）

応募数が減って心配していたが、逆に作品の質は前回よりも充実しているような印象があった。UBEビエンナーレは長い歴史の中で彫刻をめぐる議論や挑戦の歴史があり、文脈の豊かさを感じさせる多様なアプローチの作品が残ったと思う。

私は建築家なので毎日のように模型をいじるが、建築の模型と彫刻のマケットは根本的に異なる。彫刻の模型は、物質感や触覚性が凝縮し一つの思想のように感じることもある。彫刻のマケット審査では、毎回本当に感動させられる。

野外彫刻は、素材によっては腐食や破損しやすいことがある。一般的には腐食や変化は大きな問題であるが、そのことも取り込んだ思想が造形の中心にあれば良いという意見もある。そのあたりの議論について宇部が培ってきた技術や記録をもとにした対話の場を企画したら有益かもしれない。

日沼禎子委員（女子美術大学教授）

多くのアーティストの思いが詰まった審査なので大事に行った。応募点数が減ったこともあり、やはり若手アーティストの考えを吸い上げる機会というのが必要ではないかと思った。また、海外作家のことも心配をしていたが、結果的に実物制作指定作品に5組が入って、多様性が担保されたことを嬉しく思っている。審査のプロセスの中でどのように多様性が見えてくるのかということも対話しながら進められたので良かった。

高橋咲子委員（毎日新聞社東京本社学芸部記者）

10人の審査員がいて、10人の視点があるということがとても大きかった。自分が選んでいなかったものでも、他の方が選んで残ったものを見て、改めて良さが分かり投票したものもある。一方で、実物を見てみたいと思ったが、作品のサイズが基準より超過しているということで選ばなかったものもあった。その点については残念だった。